医療情報サイト「ドクターズ・ファイル」に当院が掲載されました！

当院の基本情報だけではなく、内海院長の取材内容も掲載されております。
パソコン、スマートフォンでも検索可能ですので、ぜひご覧ください！

ドクターズファイル で 検索

スマートフォン版はこちら

Doctor's File
ドクターズ・ファイル

総合新川橋病院

内海 通院長

川崎駅から徒歩10分。第一京浜（国道15号線）と県道101号線という2本の広い道路が交わる角地にある「総合新川橋病院」（208床）。交通量も多く、夜はライトアップされた外観が目をひく。8階建の本館とそれに連結している6階建の別館に分かれている。本館のエントランスは広々としたホテルのロビーさながらで、8階には本格フレンチが味わえるレストランもある。院長の内海通（うつみとおる）先生は創業者から数えて三代目。院長室には、所狭しと医学書などが置かれる中、先代院長（現院長の父）の写真と初代院長（現院長の祖父）の銅像が飾られていた。「病院の主体は患者様」と語る内海先生。穏やかな笑顔が印象的な先生の言葉には、人間的な温かさがこもる。地域の中核病院として、確固たる信頼と伝統を持つ同院。医療と介護・福祉との連携など、新しい時代を見据えた医療機関としての展望を存分に語ってもらった。
（取材日2015年7月17日）

患者が幸せな人生を送れるようにやさしい病院でありたい

―病院の概要および歴史について教えてください。

当院は一般内科をはじめ糖尿病代謝内科や循環器内科、消化器内科の他に、眼科や外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科といった幅広い診療科目を掲げている総合病院です。このほか婦人科や放射線科、麻酔科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科、歯科口腔外科、乳腺外科の標榜に加え、健康管理センターや心臓血管センターも設置し、地域に根差した中核病院として首都圏を中心に全国から訪れる方々の診察を日々行っています。病院の歴史は古く、1930年に祖父がこの場所で眼科医院を開業したのが始まりです。その後、1964年に総合病院および特定医療法人の承認を受けたことを機に、名称を「特定医療法人財団明徳会総合新川橋病院」と改め、現在に至っております。この辺りは京浜工業地帯で人口の増加が激しかったのですが、医療機関は少ないという実情がありましたので、地域の皆さまから切実に求められての開業となりました。

―内海通先生が同病院を継承されるまでの道のりとは？

私は1979年に東京医科大学を卒業し、医師免許を取得しています。1982年から東京医科大学眼科学教室で臨床研修員として勤務を始め、医師への第一歩を踏み出しました。以降、社会保険中央病院に務めたほか、立川総合病院眼科医長、市立根室病院眼科部長、海外留学を経て、東京医科大学眼科学講師等を歴任し、さまざまな経験と研鑽を積んだ後、1998年に同病院の院長、眼科部長に就任しました。

―創業者である祖父や父親から医師として受け継いだものとは？

中学生の時に祖父が亡くなり、それからは父が後を継いで院長を務めていました。患者さんにやさしい病院であれと常日頃から父は言っていましたが、その理念は祖父から受け継いだそうです。患者さんは弱い立場にあるから、どれだけ親切にしても、親切にし過ぎることはないという先代の理念を私も大切に引き継いでいます。何のために病院はあるのかといったことを考えたとき、病院は患者様がより幸せになるためにあるのだと私は思います。医療機関ですから医師が豊富な知識を持っていることや、良い治療をすることは当たり前です。当院では来院したとき以上に、病院から帰る際に患者様が幸せな気持ちになれるような、より良いサービスを心がけています。

―病院の特徴を教えてください。

先ほど申し上げた通り当院は元々眼科医院を発祥としておりますが、現在は年間約5300例の眼科手術を行っています。白内障、網膜剥子体疾患、緑内障、斜視、弱視、小児眼科などあらゆる眼疾患に対応することが可能なため、今では全国から多くの患者さんが訪れてくださっています。また、近年は眼科以外の診療科の強化にも力を入れており、稲押経外科での「脳動脈瘤手術」、循環器科での「心臓カテーテル手術」、整形外科での「脊椎手術」、乳腺外科での「乳房温存手術」、形成外科では「眼瞼下垂」「顔面骨骨折手術」「皮膚腫瘍摘出手術」など、病院全体でさまざまな疾患に対応可能な体制となっています。

DATA
総合新川橋病院
〒210-0013 神奈川県川崎市川崎区新川通1-15
TEL：044-222-2111
京急川崎駅 川崎駅

ドクターズファイル で 検索

＊裏面へ続きます

SHINKAWABASHI
HOSPITAL